

## (参照例) 総合所見

### ① 地盤関係

敷地の状況から推察して「普通の地盤」と判断しました。

### ② 基礎関係

- (1) 現場調査の結果、無筋コンクリートの布基礎判断しました。  
通常基礎は、鉄筋コンクリートで布基礎の下部に底盤(フーチング)を設けることが標準となっ ています。
- (2) シュミットハンマー試験により基礎のコンクリート強度は、平均〇〇kg/cm<sup>2</sup>の基礎強度と判断しました。
- (3) 基礎に亀裂が発生しています。

### ③ 建物の形状・重量関係

- (1) 屋根が土下地瓦葺き屋根で、壁が土塗り壁のため、「非常に重い建物」と判断しました。
- (2) 耐力壁の上下階にずれがあります。  
梁に力が集中するため、1階部分が崩れるおそれがあります。  
壁下の梁の補強や、上階の壁下に新たな壁の増設が必要です。

### ④ 筋交い関係

1階部分及び2階部分の筋交いの有無は、床下及び小屋裏からの調査では土塗り壁のため、有無及び位置特定が不能でしたので、安全側に判断し、筋交いなしとして既存の壁の耐力で判断しました。

### ⑤ 床仕様関係

床下、1階天井裏及び小屋裏において火打ちが確認できなかったので、低減をかけています。

### ⑥ 劣化度関係(対象部位の10%以上が劣化している場合、劣化点数に反映しています。)

- (1) 屋根葺き材の瓦は、全体的に割れ・欠けがみられ雨漏りの可能性があるため低減をかけています。
- (2) 外壁に0.3mm以上の亀裂が多数確認でき雨水の浸入による構造材の劣化が想定されるため低減をかけています。
- (3) 1F和室の西側内壁の一部で水浸み痕があり、構造材の劣化が想定されるため低減をかけています。
- (4) 床下の基礎にひび割れや床下部材に蟻害があり地震時に十分な耐力が見込めない可能性があるため低減をかけています。

### ⑦ その他

- (1) 床下の構造材の含水率は、約〇〇%で、腐朽・蟻害の恐れがあると思われます。
- (2) 床下の湿度は、約〇〇%で、腐朽・蟻害の恐れがあると思われます。
- (3) 床束に根がらみがありません。
- (4) 小屋裏に小屋筋交い、桁行筋交いが設置されていない部分があります。

△△△一級建築士事務所  
〇〇 〇〇 印